

- 2050 Michel Vaucaire 『愛書趣味』大高順雄訳（白水社、1984年、文庫クセジュ）
 原題: La Bibliophilie.

・ドジソン著『不思議の国のアリス』（初刊本一八六五年）〔イギリスの文献目録では、作者は常に本名で分類されるので、この初刊本について知ろうとすれば、ルイス・キャロルを引いてはならない。ルイス・キャロルとはドジソン教授の筆名である。教授は七歳前後の少女アリス・リデルを喜ばせるためにこの話を書き、一八六五年に数部だけ刷らせた。リデル以外の読者のことは彼の頭になかったのである。この初版の入手は可能である。一九六五年にロンドンで質素な一本が四千二百ポンドすなわち約五万八千フランで売却された。この値段が付くようなフランス語の原刊本がはたしてあるかどうか分からない。しかしイギリス人にとって児童本は大人向きの本と同じ位に、時にはそれ以上に評価される。しかし一八六六年の刊行年を記した『不思議の国のアリス』ならばもう二十ポンドに過ぎない〕

p. 134-135

- 2051 赤川次郎『ベビーベッドはずる休み』（集英社、1991年、集英社文庫）

「遅れちゃった、遅れちゃった……」

と、不思議の国の白ウサギみたいなセリフを口にしつつ、式場へと急ぐ。

p. 327

- 2052 新井素子『ひとめあなたに……』（双葉社、1981年、Putaba Novels）

「いま夢を見てるとこなんですよ。」とティードルディが言いました。「それで、どんな夢見てるとお思いですか？」

アリスは答えました。「だれにもわかりっこないわ。」

「どうしてです、あなたの夢を見てるんだのに！」と、ティードルディがさげびました。かちほこったように、両手をばちんとたたきながら。「それじゃ、その夢見るのやめたら、あなたはどこにいることになると思います？」

「わたしの今いるところよ、もちろん」とアリスは答えました。

「ちがいますって！」あざけるようにティードルディは言いかえします。

「あなたはどこにもいないことになるんですよ。なぜって、あなたはあの人の夢の中にすんでいるものにすぎないからです！」

「もし王さまが目をさますはめになったら、さいご、」とティードルグムがつけくわえます。「あなたはおしまいです。——ばあっと——ちょうどろうそくが消えるみたいだね！」

（鏡の国のアリス・生野幸吉氏の訳より）

p. 132-133

- 2053 新井素子『……絶句』上（早川書房、1983年、新鋭書下ろしSFノヴェルズ）

まず、にやっと笑ったのだ。そして——にやにや笑いをのこしたまま、猫の本体が消え……しばらくの間、空中ににやにや笑いだけが残り……。

and this time it vanished quite slowly, beginning with the end of the tail, and ending with the grin, which remained some time after the rest of it had gone.